

日刊 動労千葉

84. 2. 1
No. 1553

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆）〇四七二（二二）七二〇七

3・25五割動員実現を突破口に、 動乗勤改悪粉碎・二期着工阻止へ

「八四年団結旗開きにおける中野委員長からの提起」
「動労千葉の決意」より



（第一五五二号よりの続き）
動労「本部」革マルを打倒し、動乗勤改悪阻止へ

その最大の焦点はまず第一に何か。この四月より激突に入る動力車乗務員の勤務制度改悪阻止闘争であります。動力車乗務員の勤務制度をかえらうことは、全職種の勤務制度を抜本的にかえらうという事に直結します。敵は、国鉄労働運動の乗務員という本丸を攻め落とすことで労働運動をぶつぶし「二〇万人台」体制へ道をひらくうとしている。

しかも、重要なことは、この闘いはわれわれが指摘してきたように、動労「本部」革マルとの徹底した闘いを不可避とするものです。動力車乗務員の約八割を組織する動力車労働組合、これを片耳する動労「本部」革マルは、先に「職場を守るためには働き度を上げよう、貨物安定宣言で闘いは禁止」をうち出して今日の貨物大合理化―貨物全廃に至る大攻撃の道を闘わずしてはき清めてきました。この動乗勤改悪に対しても「今は冬の時代。嵐だ」だから「山に登るのはやめよう」「乗務員も一―二割働き度アップをクリアーしよう」というような事をすでに組織をあげて言ってきたております。まちがいになく彼らは当局のいいなりにものすごい労働強化―要員削減に直結する改悪協定を早々と締結し、全組合にもそれを当局の手先となつて強制してくるでしょう。この動乗勤改悪阻止闘争の前進は、動労「本部」革マル追放・一掃の闘いの前進と極めて表裏の関係にあります。私たち動労千葉は全国四〇万の国鉄労働者の中で確かに一三〇〇の少数派であるかも知れないけれども、81・3闘争でわれわれがストに入れば

首都圏の国電はすべてストップせざるを得ない、腹を固めればそういう力は持っている。全国で苦闘し真剣に闘う道を求めている国鉄労働者は、この間急速に動労「本部」革マルの裏切りにめざめ、怒りを強め、動労千葉の闘いに共鳴し、共に闘う意志を表明しはじめております。こういつたわれわれの位置を充分にかみしめながら、動乗勤改悪阻止―動労「本部」革マル粉碎・一掃を国鉄反合闘争の大きな反撃の突破口をきりひろくものとして、われわれは全力をあげて闘いぬこうではありませんか。

3・25五割動員実現で、二期攻撃を粉碎しよう

八四年の闘いの基軸をなす第二の焦点は、いうまでもなく決戦を迎えた三里塚闘争の勝利をもぎとるといふ事です。

追いつめられた中曽根は、空港推進派・成田用水理事長にして地元三里塚出身の反動の元締め水野清を建設大臣に、農民切り崩しを狙って佐原出身の山村を農水大臣に、更に暫定開港を強行した福田内閣のもとで一貫した開港強行論をとっている細田を運輸大臣（新東京国際空港担当）に、十八年前の建設計画発表時点ごろより一貫して地元の利権屋と一体となつて金権の代表を任じてきた浜幸（浜田幸一・ロッキード汚職に関連するラスベガストバキード汚職に関連するラスベガストバキード汚職に辞職したが、二期強行の気運の中で昨年再び議員に返り咲く）を建設委員長に配置するという露骨な「二期突撃シフト」としての第二次中曽根内閣を発足させました。そして反対同盟は、これに屈服・迎合して条件話し合い派に転落した一部



スクラム固く (84年1月15日、団結旗びらき)

脱落派を叩き出して、新生反対同盟として、この八四年決戦を意気軒昂と開いぬく決意を明らかにしております。この三里塚闘争は文字通り中曽根のノド元につきささったトゲとしてあるわけであつて、私たちはあらゆる闘いをこの三里塚と結合させ、この三里塚闘争で勝利すること、このことの中に中曽根反動内閣打倒の突破口をひらくうではありませんか。

そのために決定的なのは八四年前半の闘いです。二月、芝山町議選―鈴木幸司候補の必勝、そして3・25現地大集会にはかつてない規模でわれわれはこの闘いを勝利させなければならぬ。そのために動労千葉は、今まで経験したことのない「5割動員」体制―これは事実上「準ストライキ」体制にも匹敵するものといえますが―で、思いきつて決起しようではないか。そして文字通り全国の闘う国鉄労働者の共闘として、三里塚に労働者本隊の大隊列を登場させようではないか。

勝つために、学ぼう！
飛躍しよう！

第三に、こうした闘いを勝利させるためには、私たちは何よりも徹底的に学習をし、自分と組織を強化しなければ（裏面につづく）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

ばならない、ということであります。私どもは昨年の大会で「動労千葉労働学校」を設立しようということを決めたしました。そして動労千葉の闘いをこれまでも支援・ご指導をいただきいただきました浅田先生や高島先生等とご相談いたしました。高島喜久男先生を学校長に、浅田光輝先生を顧問教授として、更に多くの諸戦線の先輩・諸先生を講師団としてこの春闘前にも開設したいと考えております。

われわれは皆あんまり勉強は好きな方じゃありません。「そうだ、」の野次！爆笑)。だけど、今日これだけ反動的なイデオロギーが吹き荒れる中で、やはり勝つためには、労働者階級としてのものの見方、労働者階級としての立場と行動原理といったものをわれわれがしっかりと身につけていかねばなりません。どんな事があるともわれわれは原則を守って闘う、どんなことがあっても正しい道を歩んでいくんだ、そして勝つんだ。「イギナシ、」のかけ声！拍手)というためには、どうしてもわれわれは敵にまさる学習と武装をしなければならぬ。われわれは残念ながら「権力」を持ってないわけだから、敵以上に学習し、敵以上に行動し、そして敵以上に悩み、苦しんで実力をつける以外に勝つ道はないんだ。そのために、この労働学校を全員の力で成功させ育てていこうではあ

「初心にかえれ」

—労働学校校長を

ひきうけるにあたって—

高島 喜久男 氏



旗びらきというのは、闘いへの幕びらきです。今年の闘いに出陣される動労千葉の皆さんに、闘いに勝つことのお祝いをしたいと思えます。先ほど、なにか、私に「学校の校長」というようなお話しがなされましたけれども、実を申せば私は勉強すること

りませんか。われわれの「労働学校」は、動労千葉だけではなくて、地域の仲間たちにも門戸を開放し、また他の多くの産別の仲間たちと共に、この中で勉強していききたい、というふうに考えますので、今日お集まりの皆さん方とこのことを確認していききたいと思えます。

家族ぐるみ、地域ぐるみのたたかいを創りだそう

第四の点として、われわれは今年度の目標の一つに「家族ぐるみ、地域ぐるみの闘い」の強化をとりこんでいかなばなりません。昨年、家族会の結成にとりかかり、半分ちよつとの支部で結成をかちとつてきました。残りの支部もぜひともがんばっていただき、全体の力で本部家族会の結成にこぎつけようではありませんか。

これとあわせて、われわれは、組合員、家族、OB等の力を糾合して千葉県内の全市町村に、動労千葉の「地域班」を確立しなければならぬと思えます。自民党の反動政治が全階層の上に重く暗くのしかかり、生活破壊・反動・戦争へとひきずり込もうとする今日、闘う労働者階級の職場生産点の闘いを基軸にして、家族ぐるみ地域ぐるみの闘いになれわれが成功するとき、実に大きな展望をひらくことはまちが

いありません。すでに、三里塚・ジェット闘争—労働連帯の闘いや船橋市議選—市民の会運動の経験がはつきりと示しているように、それは実に大きな力を発揮し、限らない発展をきりひらくものとなるでしょう。この闘いは、先ほど申し上げました「三里塚—国鉄を基軸として」闘う路線の中でかちとられるものであり、この闘いの中でまた動労千葉も一皮むけたたくましい労働組合として飛躍していくことができると確信します。

初心貫徹！ 八四年「三里塚—国鉄」決戦の勝利へ

一九八四年は、まさに決戦の年であります。私は今まで、関川前委員長の女房役として書記長を十年つとめてきましたけれども、昨年の十月の定期大会で委員長の責務をひきつぐことになりました。といつても動労千葉の基本路線はいささかも変わるものではないと思います。むしろ、私が約二〇数年前、意気にもえて国鉄労働運動にとびこんでいったときの、あの同じ気持で、初心貫徹、その立場で今後とも自らの飛躍をかけ、皆さんの先頭にたつて闘いぬくという私の決意もあわせ明らかにいたしました。八四年にむかう動労千葉の決意にかえていききたいと思えます。

(完)

はきらいではありませんけれども、あまり勉強するほうではありません。つい数年前、定年でやめる前まで大学という所におりましたけれども、私は大学を卒業しておりませんので、大学の先生になる資格はなかったわけです。ですから、どうも「校長」という名前は少し気がひけるのですが、まあ、浅田先生やそのほかの諸先生方のご協力も得られるということですので、名前だけでも——まあ、名前にともなう責任だけは、なんとか果してみたいと思えます。

昨日、テレビのドラマを見ていましたら、捜査にゆきずまった刑事がさかんに「捜査は現場からだ」ということをくりかえして言っておりました。私は思うんです。闘いがむづかしいときは、これは必ず初心に帰らなければなら

らない。さきほども、動労千葉中野委員長も「初心にかえって闘う」という決意を表明されました。八四年、動労千葉は、五年前の動労千葉結成のその「初心」にかえって、また、組合員の皆さん一人ひとりが、自分が国鉄労働運動に加ってきたその時の「初心」にもどつて、この一年間をしっかりと闘いぬかなければならぬ——そう私は思えます。

「初心にたちかえれ」ということは、私たちの思想をきれいにする、強くするということですね。清い思想をもってこの一年間をお互いに闘いぬこう——それが、私の本当のこの旗びらきのお祝いのことばになると思えます。そのことを申し上げまして、ごあいさつと致します。

(動労千葉旗開きでの挨拶より)